

# 違反行為への注意が 観察者に与える影響

木野ゼミ4年 佐々木七瀬



## 1. 目的

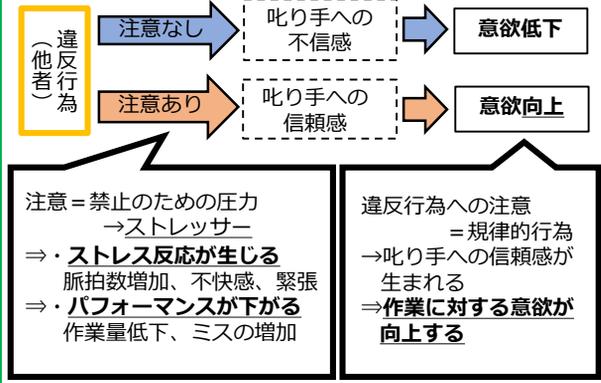
### 着想の経緯

他者に対して注意がされた時、自分が注意されたわけではないのにも関わらず、ひどく気になり、居心地が悪くなった。

⇒他者の違反行為に対する注意は観察者に影響を与えるのではないかと

**目的** 他者の違反行為への注意を観察することが、観察者に与える影響を検討する。

## 2. 仮説



## 3. 方法

### 【本実験実験対象者】

宮城学院女子大学の学生52名を、以下の3群に割り当てた。

- ・ **注意あり条件** (19名) : 課題中、違反行為に対して注意する
- ・ **注意なし条件** (16名) : 課題中、違反行為に対して注意しない
- ・ **統制条件** (17名) : 課題中、何も起こらない

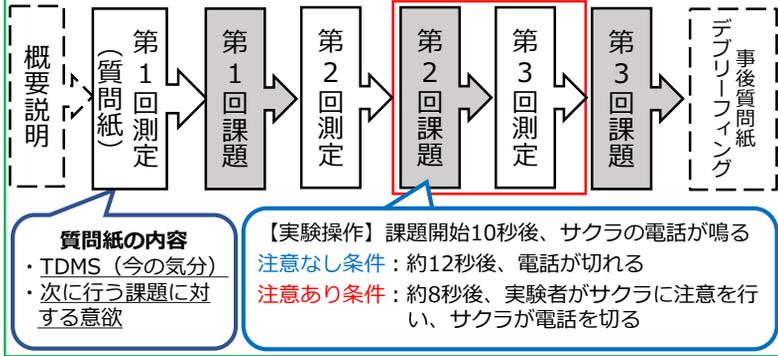
### 【本実験の主な測定項目】

- **ストレス反応** : 脈拍数、気分 (覚醒度・快適度)
- **パフォーマンス** : 課題の作業量、誤答数、書き間違い数
- **意欲** : 次に行う課題に対する意欲
- 他者の問題行動に対する考え方 (事後質問紙)

### 手続き

### 脈拍数測定

実験課題: 2ケタ+1ケタの計算課題

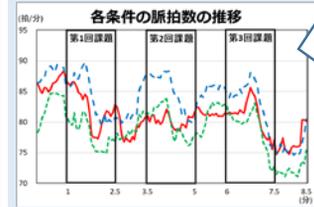


## 4. 結果と考察

分析対象 (計41名) 注意あり: 13名、注意なし: 13名、統制: 15名

注意あり条件: — 注意なし条件: - - - 統制条件: ····

### 4-1. ストレス反応



(1) 脈拍数 : 注意によるストレス反応 (脈拍数増加) は見られなかった → 時間が短く、結果に現れにくかった

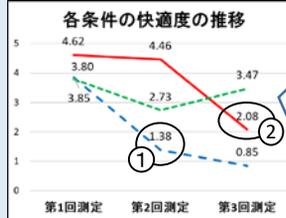
### 4-2. パフォーマンス

(4) 書き間違い数 : 有意差なし  
(5) 誤答数 : 第1回 < 第2回  
…一番初めの課題に特に集中して取り組んだ。  
⇒ 他者へ注意はミスを誘発するものではなかった。



(6) 作業量 :  
③ 統制条件については : 第1回 < 第2回・第3回  
…慣れにより作業量が増加  
④ 第2回課題については : 注意あり < 統制  
…注意により、作業量が低下  
⇒ **注意の観察が、パフォーマンスに影響した可能性 (作業量の低下)**  
※ただし、グラフ傾向からは… 注意あり : 第2回 < 第3回  
…回復傾向  
⇒ **注意観察の効果は一時的**

(2) 気分 (覚醒度) : 第1回 < 第2回・第3回  
→ 課題の遂行により、活発な気分になった。



(3) 気分 (快適度) :  
① **注意なし条件**については : 第1回 > 第2回・第3回  
…実験操作以外の影響が生じた可能性  
② **注意あり条件**については : 第1回・第2回 > 第3回  
…**注意の観察により、不快な気分になったかもしれない。**  
⇒ **ストレス反応 (快適度の低下) が生じた可能性**

### 4-3. 意欲

(7) 課題に対する意欲 : 第1回 < 第2回・第3回  
気分 (覚醒度) の結果 (第1回 < 第2回 < 第3回) と合わせて、  
→ 活発な気分になり意欲が高まった ?  
⇒ 他者への注意による、意欲への影響は見られなかった。  
…適切に注意があることが意欲につながる背景に、信頼感を仮定していたことを考えると、一貫した行動であることが確認できるような研究計画を立てる必要があったかもしれない。  
—— 質問紙や観察など実験以外の手法を検討。

事後質問紙の回答より  
① ほとんどの人が違反行為 (電話が鳴ること) が気になり、さらに迷惑に感じた人が複数いた。  
→ **違反行為の放置が常態化すると、違反行為に対する注意をしないうことが意欲の低下を招く可能性があるのではないかと。**

② 注意あり条件では、半数以上の人々が注意がされなかった場合不満に感じると回答していた。  
…違反行為への注意が適正になされるのが当然という意識がある程度共有されている。  
→ **適正な注意**がなされることには一定の意義があるのではないかと。